

# 水野雄二副院長への取材記事が掲載されました

熊本日日新聞 ことばの点滴 夕刊 2017 (平成 29年) 6月 28日 掲載

## ことばの点滴

110

熊本機能病院副院長

### 水野雄二さんに聞く

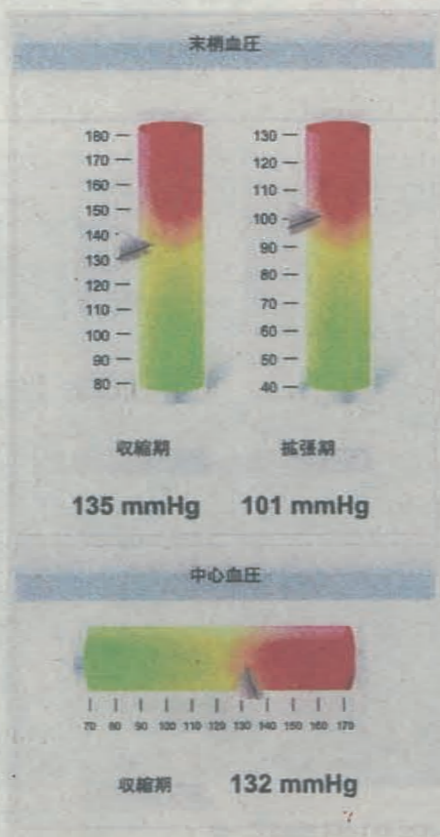
—きょうは血圧とコレステロールのお薬をもらいに来ました。10日ほど前になくなってしまいました。

「診察前の血圧は、上が144、下が95でした。だいぶ高くなっています。しばらく薬を飲んでいないと、やはり上がってしまいますね。血圧が高いまま放置すると、脳出血や脳梗塞、狭心症、心筋梗塞、心不全、腎不全など、さまざまな重い合併症を起し、命に関わることもあります」

「高血圧や脂質異常症、糖尿病などが進むと、動脈硬化を引き起こし、血流が悪くなります。動脈硬化が進んでいないか、血圧測定をして血管年齢を割り出してみましょ」

(心臓生理室で測定)

—上腕に帯を巻いて測る通常の血圧測定とほとんど変わりま



上腕で測った末梢血圧のデータから、心臓に近い大動脈の血圧である「中心血圧」を推定したデータの例(水野雄二医師提供)

## 中心血圧で正確に評価

### 血管年齢

せんね。5分もかかりません。2回測りましたが、若干、上腕を締め付ける時間が長かったです。

「当院で最近導入した血圧脈波検査装置『モバイル・オー・グラフ』で測りました。ここ2カ月ほどで測定した方は、約100例になります。方法は、上腕にカフ(腕帯)を巻き付け、上腕の末梢血圧を測ります。すぐ後に再度加圧して、血管壁の振動である脈波を10秒間測ります。上腕の脈波を基に、中心血圧を推定できるのが特徴です。脈波が伝わる速度や心臓から送り出される血液の量、血管の抵抗などの動脈硬化に関連するデータが得られます。これらを基に、血管年齢も推定できます」

「中心血圧とは何ですか。中心血圧は、心臓に近い大動脈の血圧のことです。上腕血圧よりも強く末梢の臓器障害に関係しています。降圧剤の効果をより正確に評価できることなどがメリットです。上腕で測る血圧が同じだった患者さんたちであっても、中心血圧が20〜30も異なる場合があります。この違いは血圧の波形を見るか、中心血圧を測定しなければ見えてきません」

「海外の研究では、上腕血圧が同等の2グループで、中心血圧の高い方は心血管系疾患の発生率が30%以上も高かったという結果が出ています。中心血圧の把握がとても大切です」

—血管年齢を測る方法は、ほかにもありますか。

「例えば、指先で測定する方法や、両腕と両足首の血圧を同時に測る方法があります。ただし、中心血圧を評価できた方が正確な病状評価につながり、将来の心血管病の予測に生かされます」

—1年7カ月前に受けた検査では、動脈の詰まりや硬さは正常で、同年代と比べて平均的でした。さて、今回の結果はいかがでしょう。

「上腕の血圧は135/101、中心血圧は132/102。血管年齢は、実年齢よりプラス4歳、58歳と出ました。実年齢に比べて、やや動脈硬化が進んでいるようですね。数値は、あくまで目安ですが、健康づくりへのモチベーションにもつながると思いますよ」

—血管年齢を若返らせるにはどうしたらいいのでしょうか。

「食事の塩分対策や適度な運動などがあります。薬はきちんと飲んでください。薬がなくなる前に受診するようお勧めします。どうぞお大事に」



◇みずの・ゆうじ 人吉市出身、熊本大医学部卒。日本高血圧学会指導医、日本循環器学会専門医。日本心血管内科学会評議員。54歳。